

住宅メーカーの大倉（大阪市北区）は、同社が提供する「HESTA（ヘスタ）スマートホーム」を活用し、住みやすい街をつくるプロジェクト「HESTAスマートシティ」に取り組んでいる。家電をインターネットにつなぎ、スマートフォンなどで音声操作するスマートホームで街を構成。最先端の技術で街の機能を充実させ、地方創生を目指す。その狙いを清瀧静男・代表取締役兼に聞いた。

大倉 清瀧 静男代表に聞く

きよたぎ・しずお 昭和50（1975）年、和歌山県生まれ。平成20（2008）年、大倉に入社。25年から現職。



地方都市を住みやすい街へ

「スマートシティ」プロジェクトを展開

「まずスマートシティの狙いを」
清瀧 地方で不便を感じている人たちが便利で安心

・安全な住宅を手に入れたい。地方に住むメリットが生まれてくると思うんですよね。僕が目指す地方創生

は故郷に戻ること、もしくは、故郷をセカンドハウスにすること。地方を離れた人たちが住みやすい街だからと胸を張って戻ってくるのが狙いです。

僕は点と点を線で結ぶ方法で、個々の家から始まるスマートシティをつくっていかうとしてるんです。日々の体温や血圧、心拍のデータを提携している医療機関につないで、病気に早く気付けるような環境をつくり、在宅で診療できる街をつくるのが最終的な狙いですかね。

《大倉が住宅メーカーとして培ったノウハウにAI

（人工知能）、IoT（モノのインターネット）を組み合わせるスマートシティ。同社が開発したニュータウン、三田ガーデンタウン（兵庫県三田市）とガーデンタウンさつき台（和歌山県橋本市）からプロジェクトを進める》
三田では自動走行の車による宅配サービスの実証実験を調整中。さつき台では無人の簡易宿泊所やコンビニを設置していきます。われわれの強みは自社でソフトウェアを開発しているところ。暮らしの安心・安全を実現するヘスタが「生活のプラットフォーム」になっていきます。
《清瀧代表は近畿大学附属高校時代、全国高校野球選手権大会に2回出場。社会人野球でも活躍した経歴を持つ》
「野球の経験で経営に生かされていることは

便利な住宅で街をつくる



大倉では、スマートホームのショールームをオープンしている（完全予約制）。問い合わせは大阪ショールームの無料電話0120・045・096。

清瀧 野球では、いろいろなポジションをやってきました。適材適所で人員を配置するのは経営も同じですよ。
最後に来年の創業60周年について
清瀧 ワンルームくらいの広さがある卵型のカプセルをIoT化したホテルとして日本中に配ろうと準備しています。グランピングに行くと、シャワーやトイレが付いたホテルに泊まるような感じで、例えば、北海道の釧路に「夕日が見える卵」を並べます。震災のときにはプレハブとしても使えます。60周年の目玉に考えています。